

氏名	大場 良子	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	がん看護、緩和ケア、健康心理学				
学位	修士(カウンセリング)				
学歴	筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程				
経歴	2004年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、07年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、11年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本ヒューマン・ケア心理学会(理事)、日本健康心理学会、日本カウンセリング学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
2					
3					
(2) 論文					
1	看護専門科目におけるPBL-T・TBL混合型教育プログラムの評価	共著	保健医療福祉科学、vol16、P10-15	○宮部(森山)明美、鈴木玲子、常盤文枝、山口乃生子、 <b>大場良子</b>	2017.3
2					
3					
(3) 学会発表					
1	がん体験者のレジリエンスに影響を与える要因	単著・共著の別	日本ヒューマン・ケア心理学会第18回大会	○ <b>大場良子</b>	2016.9
2					
3					
(4) その他					
1	指定交流セッション -Team Based Learning 教育の体験セッション-	共著	日本看護学教育学会第26回学術集会、東京	○鈴木玲子、常盤文枝、山口乃生子、 <b>大場良子</b> 、森山明美、齋藤美紀子、齋藤史恵	2016.8
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	婦人科がん体験者が女性性の危機を乗り越えるための心理学的支援モデルの構築(研究代表者)		2014.4~2018.3	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	看護師のキャリア開発に資するPBLを活用した教育プログラムの検証(研究分担者)		2014.4~2018.3	
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	地域包括緩和ケアの充実に向けた家族への教育支援プログラムの開発(研究分担者)		2016.4~2019.3	
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	成人看護学Ⅲ	2016.12.14	クリティカルな健康状態の患者に対する看護として、救急における終末期医療の特徴とそのケアについて講義した。		
2	リハビリテーション看護	2016.10	障がい受容をテーマに、障がい者の心理的プロセスの理解を深めるため、視覚的教材や理論を用いて授業を行った。		

3	がん看護	2016.10～2016.11	がん医療の基本的知識をはじめ、最新情報を盛り込み、講義だけでなく演習を取り入れて授業を行った。ほか、ゲストスピーカーにがん体験者をお招きした。
4	認定看護師教育課程(緩和ケアコース) 【専門科目】緩和ケアを受ける患者の心理社会的ニーズとケア	2016.11	がんサバイバーの理解と各プロセスに特徴的な心理について、実際の体験者の映像や事例を活用し、検討する機会を設定した。また、演習として当事者体験ワークを通して自分自身の生き方や支援の受け方を考えるような方法を取り入れた。そのほか、研究成果や患者会支援活動に関する講義を取り入れて授業を行った。
<b>(2) 演習</b>			
1	カウンセリング技法	2017.1	初学者向けの臨床事例を用い、コミュニケーションの基本となる傾聴技法について演習(一部、講義を含む)を行った。
2	成人看護学Ⅲ	2016.11	PBLを用いて周手術期患者の看護過程の学習を促すための支援を行った。
3	臨床看護実践	2016.4	臨床的な看護場面を設定し、看護実践能力を養うような演習展開を行った。
<b>(3) 実習</b>			
1	成人看護学実習Ⅰ	2016.5～2016.6	3年生を対象に、外科病棟を使用して8週間(2週間×4クール)の臨地実習指導を行い、個性を踏まえた周手術期看護の理解を促すように関わった。
2	成人看護学実習Ⅲ	2016.9	災害看護の理解を深めるために、救急に必要な看護技術演習および、災害に関する机上シミュレーション、教護所設営とトリアージの体験を設定し学習を支援した。
3	総合実習	2016.7	4年生を対象に、外科病棟を使用して3週間の臨地実習指導を行い、自己課題が達成できるよう支援した。
4	IPW実習	2016.10	科目責任者(地域担当)および、教員FTとしてグループが主体的に課題に取り組めるよう支援した。
<b>(4) 論文指導</b>			
1	卒業研究	2016.4～2016.12	学部生4名の卒業研究と論文指導を行った。
2			
<b>(5) その他</b>			
1	該当なし		
2			
3			
<b>4. 社会貢献活動</b>			
<b>(1) 講演会、研修会等の講師</b>			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	該当なし		
2			
3			
<b>(2) 国、自治体、財団法人等における委員等</b>			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	該当なし		
2			
3			
<b>(3) ジャーナリズムでの発言</b>			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			
<b>5. 学内運営(委員会委員)</b>			
1	該当なし		
2			
3			
<b>6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)</b>			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		

7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	日本ヒューマン・ケア心理学会第18回大会の主催(実行委員長)2016.9		
2	認定NPO法人オレンジティのスタッフとして、女性特有がん体験者の支援活動を行っている。		